



明石市立
文化博物館

文化博物館だより 第161号

2007年5月23日

みなさん、こんにちは。文博の駐輪場の花壇は色とりどりの花が満開です。日を浴びた花々を眺めていると、穏やかな気持ちになりますね。

● 企画展「小原実知成展」が始まりました。

5月19日(土)から1階特別展示室にて「2007 郷土作家シリーズ 小原実知成展」が始まりました。開催に先立ち、会場入口前に立つ大きな白い柱に、企画展開催をご案内する文字が貼り付けられました。見慣れた柱ですが、赤と黒の2色にデコレートされて、モダンな雰囲気になりました。



ここから企画展が始まります

● 第1回「小原先生に聞きました」

小原実知成展が開催中の小原先生にインタビューをしました。今号から数回に分けて、そのとき伺ったお話をご紹介します。小原先生の人柄に触れてから作品を鑑賞すると、また違った見方ができるのではないのでしょうか。

小原先生は大学卒業後、魚住中学校で10年間、鳥羽小学校で6年間、錦城中学校で7年間、美術や図工科の授業や、クラス担任やクラブ顧問として明石の学校教育に携わられました。美術の授業では生徒さんをモデルにして、毎回10～15分のクロッキーの時間がありました。小原先生もクロッキーをして、描きあがったものをモデルの生徒さんにプレゼントしていたそうです。



作品の前で

小原先生の人物画はデフォルメされたものもありますが、クロッキーは本人そっくりで、プレゼントされて喜ぶ子も多かったそうです。教え子さんたちの中には、今でも小原先生のクロッキーを大切に保存している人もいることでしょう。

「好きな作品の前で写真撮影をさせてください」とお願いすると、小原先生は迷わずこの2枚の作品の前に進まれました。その理由は「これらが代表作になるだろう」とのことです。みなさん、小原先生の代表作をお見逃しなく！